

Signatures

N° 1 欧州に現れた世界3項構造の実験

— インターメディアエーターの出現 —

N° 2 物語の結び目会議（神山特別編）

• Polyphonized by Tsuyoshi SHIDARA, Ph. D.

• 2人の経営者が語る2日間のプログラム

N° 3 ポストモダン・ビジネス研究会（第1回）

「人間はフィクションを食べて生きている」

— Fake News, Science, and Narrative —

N° 4 保育園運営事業者選定のための「7つの要点」

SHIDARA & ARCHIPELAGOs

9. 11. 2017



欧州に現れた世界3項構造の実験 — インターミディエーターの出現 —

Text: Tsuyoshi Shidara, Ph.D.

本記事は、2017年4月17日、フランス大統領選直前にShidara Pressに寄稿したものです。

フランス大統領選は、5月の決選投票を前に「右でも左でもない」中道派が大躍進している。その顔となるのがエマニュエル・マクロンだ。極右政党・国民戦線の党首ルペンと破るとの情勢分析も現れている。しかし、ここには「右でも左でもない」ことの苦悩があり、大統領当選後に待ち受ける「試練」があるという。何かと思えば、それは、続く6月に行われる議会選挙で「右と左」、すなわち既存政党と闘わなければならないことを指している。右とは共和党であり、左とは社会党である。

大統領になったからといって辣腕を振るえるわけではない。大統領権限の多くは首相の支持を必要とし、首相の任命は議会の同意を要する。よって、議会で過半の議席を得られなければ、大統領として真の政治力を手にしたとは言えない。Newsweekは、マクロン率いる政治グループ「前進！」が、自らのアイデンティティを確立して、議会で過半数を取れるか？と問うている。過半数を取れなければどうなるか。左右どちらかと連立を組むことになる。この関係に身動きがとれなくなれば、「右でも左でもなく、前進を」との大義が損なわれるという。

「世界は3項構造でできている」とする認識論では、〈中間〉というのは立派な存在項だが、右か左でなければ明確なアイデンティティを確立するのは苦労するだろうというのは、世界は2項でできているという2元論が背後に控えている。両者の〈中間領域〉という存在は存在ではなく、何もないに等しい。

「どこからともなく現れた中道政党が、フランス議会で過半数をとった歴史はない」とフィリップ・マリエール（ロンドン大学教授）は語る。だが「フランスではもはや左も右も時代にそぐわないし、中道派はいまや強力な新勢力となっている」「今後の展開は読めない」とマリエールは続ける。

⚡だが言えるのは、中道派が大統領に当選すれば「フランスの政治が再構成される」ということだ。中道派マクロンの大統領選出は、フランスは未知の領域に突入することを意味する。

の世界に渦巻く狡猾さと厳しい勢力争いのなかで、中間領域から現れた新勢力は、右と左に引つ張られながら、まっすぐには歩けないだろう。しかしそれは、すでに行き詰まった政治言語システムに新しい突破口を開くうえで不可欠な歩行である。未知の領域にふみこむ以上、有権者と、そしてその国の未来に思いをはせる人びとに届く、新たな言葉と物語が必要である。

reference:

ジョシユ・ロウ+クレール・トゥレーユ「『右でも左でもない』苦悩」・Newsweek 2017年4月25日号 p.36・37・

右派・左派という言葉の起源となったフランス政界で、そのどちらでもない勢力が現れた。インターミディエーターの登場は、2元論では支えきれない多元社会の必然である。だが、政治

Tsuyoshi Shidara, Ph.D.

●設楽剛事務所 代表、慶應義塾大学 博士〔政策・メディア〕。2000年、ハンゲームジャパン(株)の創設メンバー。初代チーフ・マーケティング・オフィサー(CMO) 兼 副社長を経て、設楽剛事務所を設立。革新型経営者のアドバイザー。今後の大きな展望と方向性をイメージできるよう、新たなビジネス・パラダイム(ビジネスの見方・考え方)の導入・形成に取り組んでいる。対話的に未来構想を描く「ナラティブ・アプローチ」を重視。論文(査読付)に、「物語ブランディングの政策効果」(政策情報学会)、「ブランディングにおける物語効果」(情報文化学会)。



●「インターミディエーター」とは

世に氾濫する「強いリーダー待望論」を超えて、未来社会の中核的存在となる「インターミディエーター」。「あいだの知」の担い手。インターミディエーターは、人と人の「あいだ」、異なる世界の「あいだ」に立ち、さまざまな次元で異なる領域を媒介するもの・人。だから、誰かの上か前に立とうとする「強いリーダー」ばかりを探し求める人にとっては、じつに見えにくく、視点を変えなければ認識・発見できない。一握りの強いリーダーと、その他大勢のフォロワー(=消極的な指示待ち人間)という垂直的な構図を打破って、あらゆる「あいだ」から両側を活かし、新たな需要と未来を創り出す存在。

●Trichotomy (3分法思考) / Trifocal Thinking (3焦点思考)

善と悪、正常と異常、社会と市場、○と×といったように、物事を2つに分けて理解しようとする「2分法思考(dichotomy)」。これは物事を単純化するだけでなく、両者のあいだに序列や優劣を設定し、一方による他方の排除をもたらす傾向がある。また実践の場では「あれかこれか」で割り切れない局面も少なくない。3分法思考や3焦点思考は、あれとこれのあいだ、つまり、中間領域の多様さに着目する。さらに、想定のかたちからはみ出すものにも焦点をあてていく。あいだや枠の外側を切り離す安易な単純化を避け、さまざまな対象(人間や地域、文化や生物など)にひそむ多様性を発見・認識しながら、ビジネスを次に展開していく思考法。

* More articles on <http://www.shidarapress.com>

* More new words on <http://www.archipelagos.jp/archipelagos/archives.html>

物語の結び目会議 神山特別編

2017/7/22 - 7/23

Polyphonized by
Tsuyoshi Shidara, Ph.D.



これからのビジネスを見透す「未来構想プログラム2017」の特別編として、2017年7月23日(土・日)に「物語の結び目会議・神山特別編」が、徳島県・神山町で開催された。2011年に神山町にいち早くサテライトオフィスを開設して以来、徳島から始まるイノベーションに寄与し続ける株式会社ダンスソフトのご協力により、当地での初開催となった。

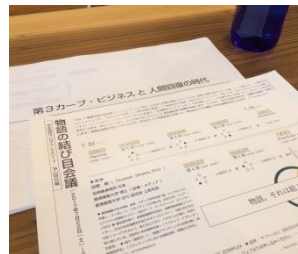
参加者は、2日間で自身のプロジェクトや事業の「**これからの物語**」を作成する。当日は、①参加者の重視する興味・関心に見耳を傾け、それを取りだしながら、②参加者主体で物語を作成し、③さらにそれらに結び目をつくり、「物語の生態系」を創りだす。タイプの異なる物語が関わりあうことで参加者たちの問題意識が刺激される。これからのビジネス・パラダイム(見方・考え方)を取り入れることで、明日のビジネス機会と次なる展望が、文字どおり「**見えて**」くる。

監修とポリフォナイザーをつとめる設楽剛(設楽剛事務所代表、慶應義塾大学博士(政策・メディア))はこう話す。「相談にいらした方が『自分の物語を見いだしていく』のを援助することが設楽剛事務所の仕事だと思っています。それがよく表れているのが、この『物語の結び目会議』です。**物語論(ナラトロジー)**の成果を活かし、2日間の集中的な知的対話を経て、みなが自分の物語を見いだしていく。といっても、自己完結した物語ではありません。**3つの方向で「結び目」をつくります。**『物語の結び目会議』とは、物語と物語を結びつける会議、という意味ですからね。いま断然不足していることです。ひとつは横方向で、ひとつのつかった物語と自分の物語のあいだに結び目をつくる。もうひとつは縦方向で、自分を越えた『地球社会の物語』『資本市場の物語』『地域生活の物語』と自分の物語とのあいだに結び目をつくる。3つ目は未来社会との結び目です。物語は、これからのためにつくるものです。**未来は過去の延長ではありません。**いずれも企業・行政・NPOそれぞれにどうも苦慮しています。もっとも私としては相手を変えよう、治そうとんかせずに、ただ場(voice)を設けて、対話をしながら待機しているだけなのです。ここは、**教えて育てる「教育」ではなく、自律的な、創造型人間が育つエンパワリングとコ・ラーニングという考え方**でできています。「もう教育はいらない」のです。小さきままな**自発と偶発と創発**が起こります。参加者一人ひとり日々の事業にコミットしているので、でてる物語が面白い。初日と2日目、**視点と視界と視力がガラッと変わる**こともしょっちゅうで、それも面白い。なにより大人が変わる稀有なプログラムになっています。」

本プログラムは2015年に沖縄で初開催され、その後、京都(同年12月)、東京・代官山(2016年6月)、沖縄(同年11月)を経て、今回5回目の開催を迎えた。これまでに東京、京都、大阪、岐阜、徳島、高知、福岡、沖縄、シンガポールなどから、経営者や実務責任者(COO)をはじめ、企業や非営利組織で要職に就く方々が参加している。

星野晃一郎氏

株式会社
ダンクソフト
C.E.O.
デジタル
アーキテクト



田子みどり氏

株式会社
コスモピア
代表取締役



2人の経営者が語る
2日間のプログラム



星野 7月22日、23日は「物語の結び目会議 神山特別編」ということで田子さんにもご参加頂いて、物語をつくりました。

田子 つくりました！

星野 いかがでしたか。

田子 物語の「結び目」をつくるというの、初めての内容だし、それを神山でやるということがまた不思議な感覚で。初めて行くところではなくて、懐かしい感じがするところで、私はなんでもこんなに神山とご縁ができているんだらうなんて、そういうところにも結び目を感じたんです。行く前から課題がありましたので、課題意識を持って臨んだので、非常に深い2日間になりましたね。

星野 そうですね。参加者同士の「結び目」をつくるシカケを設楽先生たちがいろいろと用意されているんですよ。お互いにヒアリングしながら、そのイメージを自分の中に増幅させて、それを全部じゃなくてもいいんですが吸収して、2日間で自分一人の物語を超えた物語をつくりていくというものなんです。

田子 最初はなかなか出なくてね：星野 出ないですよ、最初からそんなに簡単にはね。書き慣れていませんし。

田子 しばらく天井見たり、横見たりしていたんですけれど。最初に物語の構造を習って、

星野 そう、物語には構造がある、と田子 出発して、困難に出会って、秘宝を得て、解決して、帰ってくるというのがひとつの構造。それを使って自分の物語をつくりてくたさいということと教えて頂くんだけれど、自分のことを物語にするなんていうのは、なかなか簡単にできないから。私だけじゃなくって、みんなね。

星野 そうですね、僕は実は3回目なので、さすがに今回はすんなり書けましたね。有名な神話学者がいるんですね。ジョセフ・キャンベルという方で、彼の弟子が、ジョージ・ルーカスで、スターウォーズというのは神話のプロトタイプを使っているらしいと、その構造も習うんですけども、なかなか思い通りに行かない笑

田子 そうそうそう：すでに起こった活動についての物語であれば、主人公を立てて過去の物語は書けそうなのなのですが、そうではなくて、ここから「先」の自分の物語を紡ぐと言われると、ちょっとね、悩んじゃって。

星野 そうなんです、設楽先生の特徴は「未来の物語をつくるということ」にあるんです。



* 本対談は、「バザール・バザール・ライブ第14回」
(中央エフエム)で収録されたラジオ番組をもとに
起草・翻案。

https://www.youtube.com/watch?v=H-U1f7_HCBE

* 佐藤 勝氏：「渋谷のラジオ」ファウンダー



田子 過去を述べてはいけないという
笑
星野 未来の物語をつくるということ
を学術論文に記載されたのは彼だと思
います。本当に最新の理論だし、刺激
的です。
佐藤 それって、すごく夢を大きく持
つと夢物語だけ、それをやっぱり現
実のことを考えながらやると難しそ
うですね。
星野 結局、未来を見たときに最初に
不足しているところを考えることから
始めるので、どうやって困難を乗り越
えて行くか、秘宝を得るとか。そうい
う物語の構造プラス、これからのビジ
ネス・パラダイムについても学べるの
でできるんですね。でも結構人の方
を聞いているとわくわくしますよね。
田子 ほかの方がつくられた物語の方
が見えてくるというか
星野 うまく語られると見えてきます
よね
田子 ああ、そんなになって、こんな
か、とかね。私はうーんと悩んで、あ
と15分と言われたときに、パソコン
を持って、川のそばに行っただん
笑。で、緑台みたいなところがあるの
で、そこでおもむろに書き始めました
でもそこが神山なんですよね。私は
やっぱり会議室の中だけだと、広
がらないし、煮詰まってしまうところ
だったんですけども、そういう空間
がありました。川のせせらぎを聞き

ながら書いたんです
佐藤 学生さんとか、これからやる
ぞって思っただけでいらない方が意外と
つくりやすいかもしれないんですが、星
野社長や田子社長というような実際に
やっていらつしやる方が、そういうも
のを未来に向けてつくれるのは、実
際には考えた以上は成功させるという
責任感も伴うと余計に難しそうですね。
田子 もちろん、実現できる物語を想
定して、これからこういう物語を紡ぐ
ぞ、だけど、自分だけで紡ぐんじゃな
くって星野さんの物語と、どこでどう
リンクさせるかとか、そういうのをつ
ないでいくことによって自分一人だと
完結できないんですが、秘宝をもら
う訳なんです。うふふ。
佐藤 すごいですね！
星野 これは本当に多様なメンバーが
いるからこそ発想が変わってイノベ
ーションが起りやすくなるということ
がありますよね。で、明らかに、こ
う映像が見えるんですね。
田子 そうです、そうですね！
星野 映像ってビジョンっていい
けれども、すごく重要で、ビジョンさ
え見えてもやっぱりそれって現実化す
るんですね。そこをおそらく設楽先
生は分かっているかと思うんですが、
なかなかおもしろいんです。
田子 そうそう、映像の中で登場人物
がわいてきて、
星野 名前をつけるとそのキャラク

ターが動き始めるというのも、おもしろ
くてですね。板林は「鈴木さんとか
さん」という人をいきなり用意してね
笑
田子 「千葉の鈴木さん」が出てきま
したね笑
佐藤 よくオリンピック選手とかサッ
カーとかも、こうきたらこうきて、み
たいに動きをイメージするじゃないで
すか、そんな感じですか。
星野 あれは単発的なものですね。
もうちょっと広い範囲で、未来の自分
や未来の地域や、そこに自分だけじゃ
なくて、新しい人たちが生活している
というような、そういうイマジネー
ション。もしかすると100年後の渋
谷とかを描いてみるとおもしろいと思
いますよ。自分たちはいないと思いま
すが、彼ら未来の人たちに向けて残す
必要もあるし、これからの物語をお子
さんとかも含めてみんなで描いてみる
というようなセッションも、ぜひやっ
てみていただけたらいいですね。
「バザール・バザール・ライブ」とい
うこの番組やわれわれのやっているバ
ザールバザールという仕組みも、全部
そういう流れの中にあるのでおもしろ
いです。まさかこういう理論が世の中
にあると思っただけだったので、私個
人としては助かっていますし、さら
にそこを一緒に学べる人たちの増やし
たいと思いますね。
(Text: T. Matsubara)

「人間はフィクションを食べて生きている — Fake News, Science, and Narrative —」

これからを 支える概念群

問いが 次をつくる

意味づけられ 言葉を学ぶ

目利きの CINEMA

ポストモダン ・ビジネス

開かれた 対話と創造の場

大学院レベルに設定された本研究会では、ポストモダンのキー・コンセプトに次から次へと遭遇する。参加者たちの日々の問題意識と実務経験に、設楽から提示されるこれからの支える概念群が重なりあい、知的な熱気にあふれる研究会となった。

マレーシアと東京を往来する経営者K氏は、この映画の**2元論的構造**を指摘し、沖縄で離島の活性化支援をミッションとするH氏は、**反知性主義**と離島地域の未来課題を重ねる。大手eコマースでAI・ロボット先端事業を推進するK氏は『サビエンス全史』と合わせサイエンティスト視点で映画を読みと、横浜市立大学2年のH氏は**イマジネーション**がチンパンジーにはない人間の**Intellect**だと知る。公園経営で地域活性するNPOのK氏は科学者が議論を煽って商売していると驚き、3Dカンパニーのクリエイティブ・ディレクターK氏はデータの**信憑性**に疑問を投じる。BOPコンサルタントT氏は正誤に関わらず人は信じたい**ナラティブ**を信じてしまう傾向に言及。コンサルティング企業でダイバーシティ推進のY氏は「**主観・客観の破綻**」というポストモダンのテーマへ石を投げ、大手IT企業S氏は**Merchantsが横行する現代でどうしたら人びとが納得する未来を描けるのか**を問う。来日20年ソウル出身のマーケティング・ディレクターS氏は、周囲の**リパリアン**とどのよに会話・対話を成立させ共に**イノベーション**を起こせるかと問いを立てる。



沖縄の会場ともつなぎ、参加者一人ひとりから、映画をめぐる感想や問いが持ち出される。別の参加者が呼応し、考えを展開し、対話が広がる。要所所で、設楽によりポストモダンのコンテクストでそれらが**意味づけ**られる。

初めて聞く言葉や概念で意味づけられることで、参加者は新たな見方と考え方を身につけ、日々おこる事象を**別の見方・考え方**で捉えられるようになっていく。

また、自ら問いを立てることで、学習が起こり、変化が起こる。学習とは、行動バタンの変化を言うからだ。また不適切な問いは、不適切な方向へ人を向かわせてしまう（堂々巡り、ときに致命傷）。本研究会は、日々のビジネスの中で、クリエイティブな「**問い**」が新たに立てられよう、問いの立て方を研鑽する場でもある。

CINEMAとは世界を映し出す装置である。2016年の研究会では論文を題材に、2017年の研究会では映像資料を題材に、毎回視聴した上で参加する形式。選ばれた映像には、様々なモダンの限界とともにポストモダン現象が映し出されている。本研究会では、ご参加の皆さんと、その映画を踏まえた考察や問いをめぐり、縦横に対話を深めていく。

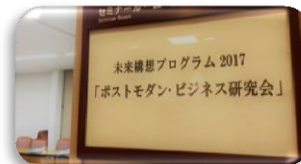


『世界を欺く商人たち』
(原題 “Merchants of Doubt”)

本作の原作者ナオミ・オラウスは、カリフォルニア大学に所属していたが、その後、ハーバード大学に移籍し、現在はそこで科学論を担当している。

オープニングは「未来構想プログラム」主宰の設楽から。

“少し大きな視野で、ビジネスの今後を展望してみましょう。それがモダンとポストモダンという枠組みです。これまでの伝統的なモダン社会で通用したさまざまな原理や条件、約束事が、いま大きく揺らいでいます。このようにモダンの原理が揺らいでいるとき、いままでの座標軸に歪みが生じますから、個人も企業も、地域も国家も岐路に立つこととなります。さまざまな迷走や衝突が生まれ、堂々巡りが始まることとなります。そこで、モダンの原理とは一体なんなのか、その限界がどのようなもので、今後どんな方向に向かって進んでいけばいいのかを、この研究会では語り合います。多くの場合、新たな見通しまではなかなか伝えてくれないものです。しかし、**今後の展望を示す**のがこの「ポストモダン・ビジネス研究会」です。”



東京・鳥居坂の国際文化会館に、ビジネスパーソン、NPO、大学生、経営者など、今年も多様なメンバーがそろった。ビジネスもマーケティングも「**人間**」が行なうこと、ということで、12月までの全6回を通じて、ポストモダン時代の「**人間**」をテーマに深めていく。

本研究会の特徴のひとつは、異質なメンバーが集まること。そして、設楽と参加者同士の**対話によって Co-learning (共同学習) の場**になること。

“**Diversity & Dialogue**”。

この「2つのD」はイノベーションを起こすための大事な条件だ。この研究会の、**この場自体が、そうしたイノベーションの原理で設計されている**。今までにも、ここから新しいビジネスの芽がいくつも生まれている。

Lecturer & Coordinator : Tsuyoshi Shidara, Ph.D.

Text : T. Matsubara

2

「思い」「物語」を重視するか

「思い」を必ず文章にしてください。これが理念になります。単に保育園をつくります、できました、ということではなくて、「もともと銭湯を営んでいて、地域から親しまれていて、今回地域のために何ができるかを考えたときに、未来のことを考えて保育園がいいのではないが、…」といった、ここまでの経緯がおりるようですので、そういった一連の物語、思い、未来のイメージを、文字にしてください。それを事業者にも話し、地域の方々など関係者たちにも折に触れ必ずお話しされるようにしてください。

1

一緒に考えて考えられる事業者か

一緒に考えて取り組んでくれる、どんなに些細なことでも話を聞いてくれる相手。疑問点をいつでも聞ける相手。ただ聞くだけではなく、こちらの考えを反映してくれるような事業者を選んでください。

※「うちにおまかせください」は一見頼もしいが、見方を変えると「プロの私たちが全部やります」と称して、「(素人は)口出ししなくていいからね」ということでもある。頼もしく見えても、一緒に考えてくれるかどうかを見極めてください。

「できあがるまでの全体像を見せてください。そのなかの、今どこをおっしゃっているのですか」と聞いてください。

保育園 運営事業者 選定のための「7つの要点」

Directed by Tsuyoshi Shidara, Ph. D.

保育園が保育士にとって「人間的成長の場」になること。ベテラン保育士が、その他の新人保育士に教え込むといった上下・一方向の構図ではなく、みんなが対等に意見を言えて、新しい有効なアイデアを出し合い、その中でお互いが育っていくこと。また保育園やその関連プログラムがよりよくなっていくような、そういう場ないし環境をつくるのが大事です。

7 保育士にとって、「人間的成長」の場 になりうるか

6 拡大志向ではない、「中規模」の運営ができるか

経営のイメージですが、規模としては「中規模」です。うまくいってくと、もっと拡張していこうという気持ちではなく、中程度が大事です。創業の理念(要点2)が、代替わりしても継承されていき、安定した収益が入ってくる、というのが経営のイメージです。

6

3

地域の声に耳を傾け、対話ができるか

設立までのあいだに、事業者の方だけでなく、地域の方、関係する方たちの声になるべくたくさん耳を傾けてください。

賛成、反対があると思いますが、賛成してくれる方はもちろん、色々な声を聞いてください。いわゆる「説明会」だと一方向になってしまうので、お茶会などでもいいですね。反対する方には事業者や役所の方も積極的に入ってくれるとのことですので、協力してもらってください。

4

「教育」ではなく、「学び」「共同学習」を重視しているか

一方向で教え込む「教育」ではなく、「学び」ということに対して、ポリシーを持っている業者がよい。業者の担当者へ、『「学び」について、どうお考えですか』と聞いてください。

「教育」は、上から一方向に教えるという意味。そうではなく、これからは、学べる条件・環境・方法をつくるということが大事。「教育」というコンセプトではなく、「学び」が大事です。

さらに、保育士も子供も保護者も地域も、もちろん事業者も、「共同学習」(目標をあわせて共に学ぶこと)が大事。

保育園の中だけで自己完結しないで、保育園の外へ出て学ぶことができ、外との関わりを持ち、子供の発育をうながすことができるような、「開かれた保育園」ということ。安全面が大事なのはいうまでもなく、その上で、ということです。

「開かれた保育園」が実現可能か

Q: 25年ぐらい前は保育園の子供たちが地域のお祭りに参加したりすることがあった。それがいまは見かけなくなった。閉じてしまうと、虚待までとはいわないけれども不適切な対処も心配だ。地域で声をかけて安全な地域をつくるというのにも似ていますか。

A: 地域の声かけのイメージ、いいですね、それもひとつです。地域と普段からかわりあっているのが大事。安全面への配慮は欠かせませんが、内側でも外側でもない「縁側」のような場もあるとよいのです。

認可保育園が不足している。特に、都市部での待機児童問題が深刻だ。働き続けることを選択する女性が増加し、子供を預ける場所が足りていない。それに対応し、政府は認可保育園開設を急ごうとするが、施設の面積や庭の確保など国の基準を満たす用地の確保が難しい。国は平成29年度末までに40万人の待機児童対策を目指していたが、10万人増やし50万人の場所を確保すると宣言。さらなる拡充政策を推進中だ。横浜市神奈川区に住むA氏は、あるときから家のポストにいくつかの建設会社から見積もりや提案書が投函されるようになった。それは、A氏が所有している土地を保育園にして上手に資産活用しませんかという文書だった。その場所は、かつて両親が銭湯を営み、地域の人びとが集まる拠点だった。その場所を、未来の子供たちを育み地域の方々が喜んでくさる場所として再生できるのならば、地域の未来に貢献できるならと考え、土地を保育園にすることを検討し始めた。もちろん、十分な広さがあり条件を満たす土地に横浜市からも関心が寄せられ、その土地を認可保育園にしてほしいとの熱烈な要望ももたらしていた。しかし、A氏はすぐに行動をおこせる気持ちにはなれなかった。地域の子育て支援にも積極的に参加してきたA氏は、保育園に子供を入れることができなかった母親たちの声をたくさん聞いてきた。保育園に落選した理由、その仕組や、母親

たちの苦労や要望に耳を傾けてきた。そのため、建設会社から投函される文書にはたいへん違和感を覚えていた。土地活用としていくと、今よりも収入がりますというところ、どのような図面にするかなどは書かれていても、肝心な子供たちや母親のこと、保育士のことは、何一つ触れられていないのだ。保育園事業を営んだことのないA氏にとって、建設会社が提示してくる金額や条件が、果たして妥当な物なのかも分からない。そして、その業者が、未来の子供たちを育むのに値する企業なのか、母親たちや地域が満足する保育園を運営してくれるのかどうか、判断がつかない。しかし、自治体からは、あと1ヶ月しかない次の期限までには応募してほしいとブッシュを受ける。待機児童問題解決に向けて数値目標達成に追われているのである。彼らから開設への具体的なアドバイスが貰えるわけではない。どうしたら地域が喜んでくださり、子供たちが大人になった時に誇りに思える保育園をつくれるか。A氏はまだまだ学びが必要だと考えていた。設楽剛事務所がA氏と出会ったのはその頃だ。A氏がよりよい保育園経営ができるよう、事業者選びの7つの要点をまとめた。これからを支える「第3カテゴリー・ビジネス」の見える「考え方」でぜひよりよい保育園経営を実現して頂きたい。以下はその7つの要点である。(Text: T. Matsubara)



Signatures 9.11.2017

発行人 設楽剛 編集人 松原朋子

発行 設楽剛事務所 <http://www.archipelagos.jp>

©SHIDARA & ARCHIPELAGOs

(本誌掲載の記事、写真、イラストレーション、ロゴの無断転載および複写を禁じます)